長崎新聞掲載／全3段（W378×H99）

# 続・奇跡はある（08）

徳永　耕一

題字・林田八郎

**子ども支援**

「こんにちは！」、「いらっしゃい！」

二〇二二年も子ども食堂は、元気のよいスタッフの笑顔とあいさつで始まった。

保護者や子どもたちは、スタッフから次々に手渡される品物を順番に受け取る。その度に、保護者から「ありがとうございます！」の言葉が返ってくる。

子どもたちからも、元気よく、中にははシャイな小声で、「ありがとう」の言葉が。

この言葉こそが、私たちの活動の源かも知れない。

子ども食堂を始めて間もない頃、たらみ様からゼリーをいただくようになり、三年前からは、日本ハム様からもたくさんの商品をいただいている。

そして、ボランティアの吉岡勝行さんや、最近は第一生命の皆さまからも、毎回たくさんの差し入れがあり、自らも配布に当たっておられ、頭が下がる思いである。

保護者や子どもたちが重そうに袋を抱えて帰る姿を見ると、私たちがささやかだが役に立っていることを実感する。

その思いを原動力にして、ホテル開業のたびに子ども食堂をオープンして、現在八カ所に至っている。毎回、まとめ役の当社総務課長大橋麻梨子や経理部長の前田久子をはじめホテルや不動産の社員が、献身的な活躍をしてくれている。

もう一つの子ども支援活動として、「子ども宅食」を実施している。子ども食堂が「一日分助かる」が目標なら、子ども宅食は「一週間分助かる」を目標にしている。毎月一万円～六千円程度の食材を、選考したご家庭に直接届けるという形だが、今年は三〇世帯に送っている。年間三百万円くらいの出費なので、「子ども宅食」の金銭的負担は大きい。

それらに加えて、この度創立四十周年記念事業として、新たに「子ども支援株式会社」を設立した。

不動産とホテルからそれぞれ五千万円を同社に貸し付けて、同社は合計一億円を原資として債権などを購入し、その運用益や定期配当を子ども支援に充てるというスキームである。

支援の内容は、①ほめたいこと、②あげたいもの、③かなえたいことの3つとした。

もし、この連載を見てお心当たりのある方は、ぜひご紹介をお願いいたします。

活動はまだ緒に就いたばかりで、最初のケースは、サッカーでバルセロナに研修に行く小学生に、渡航費用の一部を支援したことと、筆箱をほしいという低学年の子どもさんにそれをプレゼントしたことくらいである。

今後、大きな運用益が出て、より大きな支援ができることを願っている。

二〇二二年六月、NPO法人「全国子ども食堂支援センターむすびえ」の湯浅誠理事長が来社され、その時のお言葉が印象的だった。

「貴社のように企業が子ども食堂に積極的に関わっているケースは全国的に珍しいです」

今後、私たちよりも大きくて資金力もある企業が次々と参画すれば、今よりも10倍どころではない強力な子ども支援体制が構築できることは間違いない。

〈次回10月19日掲載予定〉

子ども支援の内容を募集中

Jisco Group

ジスコ不動産株式会社
ジスコホテル株式会社
ジスコ子ども支援株式会社

長崎県諫早市永昌町4-26
TEL 0957-27-1112　FAX 0957-26-1777